

【発表要旨】

＜発表者＞ 指導区名：鹿児島指導区 氏名：塩山 英男

1 発表テーマ 南薩流域における原木流通効率化への取組

2 テーマの趣旨・目的 <取組課題選定の背景含む>

当流域においては、県の「森林・林業振興基本計画」の基本理念の実現や目標の達成に向けて、「鹿児島・南薩地域未来の森林づくり推進プラン」を令和元年10月に作成し、種々の目標を掲げて、関係者が一丸となって取り組んでいる。

このような中、当流域では、丸太の海外輸出やバイオマス発電施設の稼働等により、利用期に達している森林の主伐が進み、素材生産活動が活発化している。

さらに、昨年度、湧水町に大型木材加工施設が稼働するなど新たな木材需要も創出されていることから、その需要に対する原木の安定供給体制の構築を図るとともに、効率的な原木輸送による木材流通の合理化を図ることが必要となっている。

そこで、南薩流域内の原木流通の実態把握を行うとともに、流通コストの低減に向けた提案や流域内の林業事業者で構成される協議会の設立など、原木流通効率化への取り組みを実施した。

3 現状及びこれまでの取組の成果・課題

① 成果（目標数値等を定めた場合は、その成果を含む）

○ 原木流通コストの低減方法の洗い出し

- ・ 原木流通の実態を検証するため、「原木流通実態調査」を実施し、流域内での原木流通に関する実態把握を行った。

○ 原木流通コストの低減に向けた提案

- ・ 原木流通に関する実態調査の結果から、流域内における効率的な輸送パターンなど原木流通コストの低減に向けた提案を行った。

○ 「南薩流域原木供給協議会」の設立に向けた調整及び合意形成

- ・ 原木流通の効率化を図ることなどを背景として、流域内の林業事業者で構成される「南薩流域原木供給協議会」の設立に向け、関係者への調整及び合意形成を図った。

② 課題

- ・ 「南薩流域原木供給協議会」の実践的取組の推進と効果の検証
- ・ 原木取扱量の増大と協議会への参画事業者の拡大

4 今後取り組むべき内容

① 具体的手法又は検討方向

- 「南薩流域原木供給協議会」の実践的取組の推進と効果の検証
 - ・ 大口需要に即座に対応できるよう、出荷先に対応した採材等の技術研修の実施など実践的な取組を推進
 - ・ 定期的に流通コストの分析を行うとともに、更なる効率化に向けた輸送パターンの検討

- 原木取扱量の増大と協議会への参画事業体の拡大
 - ・ 効果の検証結果等に基づき、需要先の多角化や取扱量の増大を図るとともに、流域内の他の林業事業体の参画を奨励

② 理由

新たな需要に対応した原木の供給体制を構築するためには、採材等の技術研修を行い原木の付加価値を高める技術の習得を図る必要がある。

また、木材生産活動が、今後ますます活発化することが想定されることから、流域内の林業事業体、行政などの関係者が一丸となって、原木の安定供給体制の構築や原木流通の効率化に努め、その効果を再生林の推進の強化に繋げる必要がある。

③ 期待する成果（目標数値等を定めた場合は、その内容を含む）

原木の安定供給体制の構築や原木流通の効率化により、生産コストの低減が図られ、そのコスト削減分を森林所有者へ還元することで、再生林の推進に寄与することが期待できる。

また、再生林の推進により、南薩流域において「伐って→使って→植えて→育てる」という森林資源の循環利用の促進が期待できる。